

広 報 誌

DOSHIN

《 同 心 》

No.80

2026.7

社会福祉法人 長岡福祉協会
長岡療育園

広報誌 2026年(令和8年)7月 目次

DOSHIN〈同心〉

長岡療育園の課題	3
各部署報告	4
令和8年度 委員会の活動計画	17
令和7年度 研修会・勉強会実施表	19
令和7年度 園内行事一覧・園内行事報告	20
令和8年度 事業計画概要	21
令和7年度 事業実績概要	22
令和8年度 資金収支予算書	26
令和7年度 決算諸表	27
令和8年度 家族会・守る会分会	28
令和7年度 学会発表・園内研究	29
寄贈・ボランティア	31



長岡療育園の課題

長岡療育園 園長 沼田 修

長岡療育園は、昭和54年に重症心身障害児者（重症児者）のための施設として開園し、県内の重症児者の医療と福祉の中核施設を担っています。今年5月に47周年の創立記念日を迎えました。

現在、長岡療育園の抱えている4つの課題について考えてみました。

1 入所利用者の高齢化への対応

本年4月1日時点で、入所者140名の平均年齢は49.4歳です。18歳未満の児は2名（1%）、65歳以上の高齢者が40名（28%）、そのうち75歳以上の後期高齢者は16名（11%）です。高齢化による身体機能の低下も加わるため、それに応じた療育や日中活動を検討する必要があります。また、罹患しやすい疾患も変化し、年齢を考慮した検査や治療方法の選択が重要です。利用者的高齢化に応じた福祉と医療の対応が求められます。

2 短期入所支援の利用制限について

レスパイトを含む短期入所は、重症児者の在宅生活を支える上で最も重要な支援と考えています。当園では、平成8年に開始し、利用者数は右肩上がりに増加し、令和元年度は延べ利用日数6868日（18.8人/日）となりました。しかし、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の流行と、人工呼吸器使用などの超重症児者の利用者の増加による看護・介護業務の負担増加のため、利用者数を制限せざるを得ず、令和7年度は延べ利用日数5218日（14.7人）に減少しました。重症児者の利用希望に応えきれない状況です。

3 在宅重症児者への訪問医療について

当園は、今まで診療や訓練は設備面から来園してもらったほうが効果的であるとの理由で、超（準超）重症児者に限定して訪問看護・介護だけを実施し、他の訪問医療に消極的でした。しかし、国の医療計画では在宅医療を推奨しています。当園でも来園が非常に困難な利用者も増加しています。訪問診療や訪問リハなどの支援体制も検討していく必要があります。

4 外来診療での発達障害児への対応

従来、外来は重症児者、てんかんの診療が中心でした。近年、発達障害児が増加しています。医療機関や行政機関などからの紹介も多くなっています。国の施策により5歳児健診が開始され、さらに外来受診者が増加することが予想されます。今後、発達障害児の診察と療育について対応していく必要があります。

創立50周年に向け、これらの課題の対策を考えていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

各 部 署 報 告

看護部

< 1 病棟 >

1. 年間目標

- (1) 利用者の健康管理と事故防止に努める
- (2) 療育活動の充実を図る
- (3) ショートステイ業務の円滑化を図る
- (4) 職員の資質向上に努める



2. 具体的実施要項・内容

- (1) ①利用者の異常の早期発見に努め、適切に対応する。
②利用者の健康状態把握と情報の共有に努め、健康を維持する。
③職員の医療安全に対する意識を向上し、事故防止に努める。
④感染対策の徹底を図る。
- (2) ①個別支援計画に即したサービスを提供する。
②担当者が中心となり、個別支援計画の評価・見直しを行い、情報を共有する。
③時間を有効活用し、計画性をもって療育活動・活動記録を充実させる。
- (3) ①ショートステイ利用者の情報を共有し、安全で安心できる支援を検討し提供する。
②ショートステイ利用状況に応じた支援体制を整える。
- (4) ①部署目標を意識し、職員一人一人が責任ある行動とり、業務にあたる。
②倫理観を養い、利用者の立場に立って支援する。
③園内外の研修に自主参加するなど積極的に自己学習し、知識・技術の向上を目指す。

3. 令和7年度の反省点・問題点

- (1) 健康状態の把握に努め、状態に応じて観察の強化や診察に繋がった。救急搬送や専門医を受診するケースがかなり増えたが、その都度適切な対応ができていたと思われる。今年度は骨折が4件あり、考えられる原因と対策を全職員で確認し再発防止に努めた。介助時の注意不足や情報共有の不備も要因として考えられたため、職員の資質向上を図るとともに情報共有の強化も図る必要がある。感染においては、4月にコロナ、12月にインフルエンザ感染者が発生したが、いずれも数名に留まり、拡大防止が図れた。7月に呼吸器症状を伴う発熱者が多数発生し、感染を機に元来の病状が悪化したケースもあった。今後も日頃の健康管理と異常時の適時適切な対応、感染対策の徹底に努めていく。
- (2) 担当者が中心となり、作業療法士と連携しながら支援計画に沿った活動を提供してきた。また、日課・業務を見直し、利用者全員で参加する昼の会（季節の歌・手遊び歌等）を設け、定着させることができた。今後も計画的に取り組みながら、記録の質も向上させていきたい。
- (3) ショートステイ担当者を中心に、情報共有や危険回避のための対応策の検討を入念に行い支援に繋がった。加えて朝の会や関わりを通して安心できる環境づくりにも努めた。一方で、持参品の返却忘れや記録漏れがあり、それらの対応に時間を費やすこともあった。次年度は不備不足を減らし時間のロスを生じさせないように、支援体制を見直していく。
- (4) 研修参加後には学びを共有したり、部署内での勉強会の方法を変えたりと、学ぶ機会を増やした。倫理検討では具体的な取り組みを示し、意識しながら支援するよう心がけた。継続的な検討会等で内省する機会が持て、かつ他者の考えを知ることによって倫理観の醸成にも繋がっている。今後も計画的な取り組みを継続し、職員の資質向上に努めていきたい。

＜ 2 病棟＞

1. 年間目標

- (1) 利用者の健康管理と事故防止に努める
- (2) 療育活動の充実を図る
- (3) 職員の資質向上に努める



2. 具体的実施要項・内容

- (1) ①利用者個々の健康状態把握と、情報の共有に努め健康を維持する。
②異常の早期発見に努め、適切に対応する。
③職員の医療安全に対する意識を向上し、事故防止に努める。常に、起こりうる事態を予測しながら業務に取り組む。
④感染対策に努める。
- (2) ①個別支援プログラムの見直し、評価を行い、個々に合ったより良いサービスを提供する。
②各自責任をもって個別支援プログラムを展開し、療育活動に取り組む。
③個々の支援計画を共通理解し、多職種連携しながら利用者本位の支援を実践する。
- (3) ①職員一人一人が業務目標を明確にし、目標達成に向け業務に取り組む。
②他職種連携し、カンファレンスを実施する。
③常に、倫理的配慮を考慮した行動をとる。
④積極的に研修等に参加し、知識の習得、技術の向上を目指す。

3. 令和7年度の反省点・問題点

- (1) 利用者の健康管理と事故防止に努める

入所者の高齢化・重症化により、他科受診が増えている。普段の関わりの中で、いつもと違う状態に気付けるよう、職員間で情報を共有し異常の早期発見に努めている。また、今年度、骨折1件、誤薬6件発生し行政報告した。事故の発生原因と対策を全職員で検討する機会を多くもった。職員一人一人が常に危険を予測した関わりを意識し、行動できるよう今後も検討の機会を設けていく。感染症については、令和7年12月にコロナとインフルエンザ感染者が発生したが、感染が拡大することなく終息できた。今後も、普段からの感染対策を職員一人一人が意識し行動することを徹底していく。

- (2) 療育活動の充実を図る

担当が主となり支援プログラムに沿った関わりを実施、評価している。リハビリ職員とも情報共有し、グループ活動も充実できた。外出の他、カラオケ大会や1年を振り返る会を開催し、テラスで過ごすことや、屋外に散歩に行くことも増えたため、日常生活の充実につながっていると考えている。今後も、個々にあった活動と季節を感じられるような活動を継続していく。

- (3) 職員の資質向上に努める

定期的な倫理検討会では、「プライバシーの保護」「環境整備」「療育活動を充実するために」などについて意見交換し、業務に反映した。また、職員の勉強会の機会をつくり各自が研修等で学んだことや、これまでの経験で得たことを他職員へ伝達してきた。その中で、他者の意見を聞き、考え方の違いがある中でどう行動するべきかを検討している。

< 3 病棟 >

1. 年間目標

- (1) 利用者の健康管理と事故防止に努める
- (2) ショートステイ業務を円滑に実施する
- (3) 療育の充実を図る
- (4) 倫理観を持って業務に励む
- (5) 感染予防対策に努める



2. 具体的実施要項・内容

- (1) ①利用者の健康状態把握と情報の共有に努め健康を維持する。
②異常の早期発見に努め適切に対応する。
③個々の援助方法を確認・把握すると共に適宜評価と見直しを行い安全に生活支援する。
④職員の医療安全に対する意識を向上し、事故防止に努める。事故報告書提出で終わらず職員で共有し再発防止に努める。
- (2) ①利用者の情報を共有し、突発的事態においても受け入れ体制を整え安全に過ごせるように支援する。
②他部署、地域、家族との連携を強化し、利用者の状況把握に努める。
③物品整理に努め、返し忘れ、返し間違いがないよう徹底する。
- (3) ①個別支援計画に即した個別のサービスを充実させる。
②個別支援計画の見直し・評価を徹底し、スタッフ間で情報を共有する。
③日常の中で、楽しみが増えるような関わりを増やしていく。
- (4) ①職員一人一人が、利用者の尊厳を理解し、関わられるような勉強会の企画。
②スタッフが様々なことを言い合える環境づくり。
③チームカンファレンスの充実。
- (5) ①あらゆる感染症に対して、その時々感染対策を実施する。
②手指衛生（手洗い、手指消毒等）、マスクやゴーグルの使用、適時換気の実施を徹底する。
③発熱者に対しては、速やかに隔離を実施する。

3. 令和7年度の反省点・問題点

- (1) 令和7年度は、全体的に利用者の状態は安定していた。引き続き、観察を徹底し、利用者の体調管理や状態変化に敏感になり、担当医師やチームスタッフで連携し、利用者の体調管理に努めていく。
- (2) 近年、医療ケアのある利用者が多い現状にある。家族のニーズに対応しつつ、ショートステイの利用人数も含め、安全にお預かりできるような体制を地域連携やショートステイ部屋スタッフと共に考えていきたい。内服薬の返却忘れ、返却間違いが何件か発生した。改めて、マニュアルの徹底を呼び掛けていく必要がある。
- (3) 令和7年度も「個々に合った療育活動を看護職、育生職関係なく協力し提供していく」という事を目標に行ってきた。引き続き、看護・育生の療育担当で協力し、積極的に勉強会や療育を実施してもらってきた。そのような働きかけにより、利用者様個々に合わせた個別活動を実施している様子が多く見られた。今後も継続して働きかけを行い、療育の充実を図っていきたい。
- (4) 今年度も倫理検討会を通し、職員一人一人が倫理について考える機会が定期的にあったと感じる。来年度も、病棟内の倫理的問題と向き合い、病棟全体で改善に向けた取り組みを行ってきたい。
- (5) 年末の12月に、入所者、職員併せて7名のインフルエンザ感染。1月には入所者、職員併せて11名のコロナウイルス感染が発生した。コロナ感染に関しては約2週間の病棟閉鎖となってしまった。令和8年度も引き続き、職員一人一人がスタンダードプリコーションを徹底できるよう、呼び掛けていきたい。

<通園>

1. 年間目標

- (1) 個別支援計画に基づくサービスの提供
- (2) 利用者の健康管理及び療育活動の充実
- (3) 家族支援と主治医、関係部署、関係機関との連絡体制の強化
- (4) 安全な送迎の実施

2. 具体的実施要項・内容

- (1) 身体状況、発達段階に沿った個別支援計画の作成。
半年毎に評価し家族との情報共有を行う。
- (2) 家族との情報交換を密に行い健康状態の把握に努める。
異常時の早期発見に努める。
個別支援計画に沿った療育活動の提供を行う。
- (3) 主治医、家族との連絡体制を強化し身体状況の把握・管理に努める。
関係機関と連絡を密に行い、利用者のニーズや問題解決に努める。
- (4) 運転前点検を徹底し、安全運転に努める。車内への降ろし忘れのないよう確認の徹底。



3. 令和7年度の反省点・問題点

令和7年度年間目標

- (1) 個別支援に基づくサービスの提供、利用者の健康及び活動の充実
身体状況、発達段階に沿った個別支援計画をもとにサービスの提供を実施した。
呼吸状態等に配慮し体調を考慮した活動の提供を行った。
- (2) ご家族、主治医、各部署、関係機関との連携体制の強化
サービス管理責任者を中心に関係各部署、関係機関との連携を行った。
利用者の全身状態の観察に努め、必要時には早めの受診を促した。
3～6ヶ月に一度、外来での主治医受診を促した。
ケアステーション県央・魚沼、リハビリスタッフとの情報共有に努めた。
- (3) 緊急時の対応について勉強会の実施
緊急時の対応、AEDの使い方について研修を行った。
送迎時、車内での緊急時対応について研修を行った。
車内でのCPR法についての研修を行った。

＜ケアステーション魚沼＞

1. 年間目標

- (1) 利用者の維持（1日平均の利用者数12名以上）
- (2) 個別支援計画の充実
- (3) 地域社会との関りを大切にする



2. 具体的実施要項・内容

- (1) 新規利用者獲得のため、特別支援学校や、相談支援事業所、基幹病院や市町村との連携強化を図る。
- (2) ケース検討を通して支援計画の見直しを行い、計画に沿った支援の実施や内容の充実に努める。
- (3) 地域の行事参加や社会資源を利用して外出する機会を設け、感染症の状況を勘案しながら地域住民との交流を積極的に取り入れていく。

3. 令和7年度の反省点・問題点

- (1) 令和8年2月末での平均利用者数は、11.0名であり、目標にしていた13名を大きく下回る見込み。短期入所やレスパイト入院の利用が増えたこと、2名の契約終了者(入所のため)もあり、登録者数も31名に減少した。
近隣市町村への送迎も継続中。今後も利用者数の維持・増加のために、ハイエース3台での送迎体制は必須。
常時医療行為を必要とする利用者が増え、重症化してきている。今後も、看護師の確保や介護職員等による喀痰吸引研修等の受講を継続し、利用者を受け入れる体制を維持していく。
現在の登録者になるべく休まず利用してもらえよう、サービスの質の向上に努めていく。
新規ニーズを逃さないよう、魚沼市だけでなく、南魚沼市・十日町市も含めた各機関との連携強化を図っていく必要がある。
- (2) 看護師、介護福祉士、保育士、社会福祉士の各視点から個別支援計画の内容を検討し、見直しを行っている。個別支援計画書書式も新しくなったため、新しい視点にも着目しながら内容の総点検を実施したい。また意思決定支援に関する項目も追加する。今後も事業所内での検討だけでなく、長岡療育園通園センター、ケアステーション県央、他事業所とも連携し、個別支援の質を向上していきたい。
- (3) 今年度は少人数での外出を再開し、地域の図書館やレストラン、地元のショッピングモール等を利用した。利用者の社会参加や余暇支援としても継続していきたい。また、地域の文化祭へ複数出展し見学に出かけたり、福祉フェスティバルへの出店も実施した。今後も感染予防に留意しながら行事参加や、施設周辺の散策、外出を実施し、地域住民との交流を図っていきたい。

＜ケアステーション県央＞

1. 年間目標

- (1) 利用者登録増と延利用者人数の増加
- (2) 療育活動や個別活動の充実
- (3) 地域連携と家族支援の充実

2. 具体的実施要項・内容

- (1) 利用曜日や送迎、入浴等のサービス調整を行い、現利用者の利用回数の増加を目指す。
- (2) 個別支援計画の評価と見直しを適時行い、計画内容に沿った活動を提供する。
- (3) 関係機関との連携を密に行い、相談支援等を通じてニーズの把握や利用者の抱える問題解決につなげる。
- (4) 家族の座談会を実施することにより、家族に向けた勉強会や情報交換の場を提供し家族支援の充実を図る。

3. 令和7年度の反省点・問題点

- (1) 延利用者人数を増加させ、一日平均18名以上の利用を目指す。

令和7年度各曜日の利用登録者数(令和8年3月31日現在)平均19.4名。

児童発達支援利用者の利用増加により、全体としては前年度より0.6名増加。

生活介護の契約終了2名、児童発達支援の新規契約2名。

生活介護の長岡療育園通園センター利用者の一部をケアステーション県央利用に変更。

令和7年1月～令和7年12月までの一日平均利用者数は13.9名(令和6年度より0.5名減)。

今後も継続して利用者増に向けた取り組みを継続していく。

- (2) 療育活動や個別活動の充実を図る。

療育活動は粗大運動を中心に取り組み、全身で感じることのできる刺激を体験した。季節行事として制作活動や感触遊びを行い、季節を感じられるような活動を行ってきた。また、療育活動の中でも音楽を活用し活動を実施する事で利用者の反応や良い表情が多く引き出した。

午後はミュージックケア等の音楽を使用したリトミック活動を実施。

- (3) 地域連携と家族支援の充実

児童発達支援の利用者が増えた事により、担当の相談員、保健師との情報交換等が増えた。支援学校の職場実習の受け入れを行い、卒後に向けた情報交換を行い、スムーズな移行支援が行なえるようにした。

家族支援として児童発達支援、放課後等デイサービス利用者の家族座談会を今年度も実施。今年度は生活介護利用者の家族座談会も実施し、それぞれ、各年代での困りごと等を話す機会としてもらった。座談会を活用して防災の勉強会を実施、家族から防災について色々な意見が聞かれた。

＜地域連携室＞

1. 年間目標

- (1) 療育支援体制の整備
- (2) 障害児者のニーズに応じた生活支援
- (3) 重症児者・医療的ケア児者の支援体制の整備（新潟県医療的ケア児支援センター）

2. 具体的実施要項・内容

(1) 相談支援

在宅の障害児者の相談対応、障害児等療育支援事業の実施。

＊昨年度実績 電話 7 件、来所15件、訪問21件、会議 4 件

(2) 計画相談支援・障害児相談支援

相談員が家庭訪問等を行い、サービス提供事業所と連携しながら、利用者の発達状況に合わせて支援利用計画を作成する。その後も定期的にモニタリングを行う。

＊昨年度実績 電話76件、来所401件、訪問378件、会議259件

(3) 新潟県医療的ケア児支援センターゆい・にじいろ

重症心身障害児者・医療的ケア児者を対象に家族・関係者に対する助言や支援体制の構築に向けたサポート、支援者の養成を行う。

＊昨年度実績 相談件数143件、会議89件、研修会 8 件、講師 6 件、その他16件（学校看護師巡回相談、家族の集いなど）

3. 令和 7 年度の結果

- (1) 糸魚川・十日町地域への専門職派遣、冬期間における魚沼地域へのリハビリ派遣、外来療育教室を実施した。
- (2) 長岡市の自立支援協議会に参加し、相談支援体制の協議を行った。市内では新規受け入れが切迫しており、当園でも新規受け入れを行った。相談員 1 人当たりの件数が多いことが課題。TCでケース報告、ケース検討、勉強会を実施した。
- (3) R 4 年度より県の委託を受けて、県下に 1 か所の医療的ケア児支援センターとして活動している。県内のご家族・関係者より相談や問い合わせがあり、助言や情報提供、施設支援など行った。また、医療的ケア児等コーディネーターの養成や現任の医療的ケア児等コーディネーターのフォローアップ、市町村立学校看護師研修会など各種研修会を実施し、支援者の養成等を行った。その他、県医師会及び県障害福祉課、家族会と連携し、新潟県医療的ケア児支援検討会の設置に向け準備会を開催した。

4. 令和 8 年度の目標

- (1) 療育支援体制の整備
- (2) 障害児者のニーズに応じた生活支援
- (3) 重症児者・医療的ケア児者の支援体制の整備（新潟県医療的ケア児支援センター）

医務部

＜リハビリテーション＞

1. 年間目標

- (1) 各部門の充実と病棟や地域関係機関との連携を図る。
- (2) 研修会参加、研究活動にて利用者サービスに還元する。

2. 具体的実施要項・内容

- (1) 提供しているサービスの効果・変化を意識し修正してリハビリを実施する。
病棟スタッフとの連携、介入方法の検討をケースカンファレンスに出席し行う。
地域の発達教室などへの指導・協力と特別支援学校などへの研修指導会へは継続し行う。
外来利用者には保護者との関わりで地域連携室との連携と協力体制を継続して行う。
- (2) リハビリスタッフの意識の統一、経験・能力に応じたレベルアップを行う。

3. 令和7年度の結果

- (1) 病棟との連携も深めることができた。地域支援では他の事業所、保育園や学校などのスタッフとの連携がより増加した。
- (2) 若手職員の知識・技術向上を中心に取り組んだ。各スタッフの知識・技術の伝達もより適切に実施できた。

4. 令和8年度の目標

- (1) 利用児・者一人一人に応じたりハビリの質的向上を図る。
- (2) リハビリに関する専門性向上を図る。
- (3) 地域連携室および地域の関係機関との連携を図る。

＜薬局＞

1. 年間目標

- (1) 薬局内業務の遂行化
- (2) 院内医薬品集の改訂
- (3) 関係部署との連携

2. 具体的実施要項・内容

- (1) スタッフ全員が薬局の業務を把握できるように担当の業務を分散化する。
- (2) 過去の院内医薬品集を見直し、改訂する。
- (3) 関係部署との「報・連・相」を常に心がけ、情報を共有し、業務の円滑化を図る。

3. 令和7年度の結果

医薬品集は順次更新している。

4. 令和8年度の目標

- (1) 薬局内業務の遂行化
- (2) 院内医薬品集の更新
- (3) 関係部署との連携

＜X線室＞

1. 年間目標

- (1) 良質な医療画像を提供する
- (2) 放射線の安全管理を行う

2. 具体的実施要項・内容

- (1) マニュアルに従って検査を行う
- (2) 勉強会等に参加して技術や知識の向上をめざす
- (3) 機器の点検を行い保守に努める

3. 令和7年度の結果

- (1) マニュアルの見直しを行い、撮影条件を最適化した。
- (2) 園外および園内の研修会に参加し、知識を更新することができた。
- (3) 技師による日常点検と業者による定期点検を行い、装置の保守に努めることにより、安全にX線検査ができた。

4. 令和8年度の目標

- (1) 良質な医療画像を提供する
- (2) 放射線の安全管理を行う

＜検査＞

1. 年間目標

- (1) 生理機能検査と検体検査の円滑な実施及び各部署と連携を図りながら業務を進める
- (2) 検査機器の正確な操作と保守管理を行う

2. 具体的実施要項・内容

- (1) 各検査機器の適正な活用を行う。
- (2) 休日検査のスムーズな実施のために、他部署への周知・連携を図る。
- (3) 検査機器の保守管理標準作業書及び保守管理作業日誌、測定作業日誌、精度管理台帳を活用し、保守管理を実施する。

3. 令和7年度の結果

- (1) 試薬管理を含め、検査機器は適正に活用された。
- (2) 休日に行った検査の実施状況の把握が遅れることがあった。
- (3) 各検査機器について、各種作業日誌や台帳を使用し保守管理に努めることが出来た。

4. 令和8年度の目標

- (1) 生理機能検査と検体検査の円滑な実施及び各部署と連携を図りながら業務を進める
- (2) 検査機器の正確な操作と保守管理を行う

＜心理検査＞

1. 年間目標

- (1) 信頼性の高い心理検査の実施に努める
- (2) 検査結果に基づいたアセスメントを行う
- (3) 保護者の相談に応じ、助言する

2. 具体的実施要項・内容

- (1) マニュアルに従って、厳格かつ丁寧な検査の実施を心掛ける。検査結果の算出時やカルテ記載時にミスが無いよう心掛ける。慣れた検査も見直しを徹底する。
- (2) 検査結果に基づいた論理的なアセスメントを行い、カルテに記載する。アセスメント技術向上のための研鑽を怠らない。
- (3) 保護者の相談に応じ、発達や障害についての不安の軽減を図る。必要に応じて関係機関との連携を図る。

3. 令和7年度の結果

人員不足により、前年よりも検査を受けられる件数が減ってしまった。しかし、各部署と連携して患者様の待ち期間が短くなるように努め、検査結果のフィードバックなど不安を抱えている保護者への相談対応は継続して実施した。検査に関する研修会を受け、アセスメント技術向上に努めた。

件数は少ないが、個別にソーシャルスキルトレーニングを実施することができ、問題を抱える児と家族を支援することができた。

4. 令和8年度の目標

- (1) 信頼性の高い心理検査の実施に努める
- (2) 検査結果に基づいたアセスメントを行う
- (3) 受けられる検査の件数を増やし、患者様の待ち期間を短くする
- (4) 保護者の相談に応じ、助言する

<栄養課>

1. 年間目標

- (1) 利用者の健康増進と豊かな食生活を目指す
- (2) 職員の資質向上を図り、利用者への食事に還元する
- (3) 衛生管理の徹底を図る
- (4) 災害時の対応強化

2. 具体的実施要項・内容

- (1) 栄養ケアの向上
多職種との迅速な対応を図れるよう取り組む。
- (2) 研修会・勉強会への参加
重症児者に適した食事を理解するため勉強会の実施。
個々の目標を明確にし、目標達成に向けて取り組む。
- (3) 大量調理衛生管理マニュアルに基づき、衛生管理を徹底し食中毒防止に努める。
マニュアルの読み合わせ、衛生管理の意識を高め事故防止に努める、自己の体調管理の徹底。
- (4) 災害対応マニュアルの読み合わせ、使用備品の確認と準備。多職種との連携を図り、想定訓練を行う。

3. 令和7年度の結果

- (1) 多職種との連携により、栄養上の問題を迅速に対応できた。
入所者・利用者のライフステージに合わせた摂食・嚥下に応じた献立の立案と給与栄養量の確保(主に微量元素)を工夫し、今後も栄養状態の把握に留意しながら対応して行く。
- (2) 個人目標を明確にし、目標に向かって取り組んだ。
- (3) マニュアルに基づき、その都度声掛けを行い衛生管理の意識を高め業務に取り組んだ。
作業工程を見直し、再度衛生管理・誤配膳防止を徹底した。
- (4) いろいろな場面での想定訓練を行った。
災害食の見直しができ、来年度につなげることが出来た。
職員食の導入を行った。

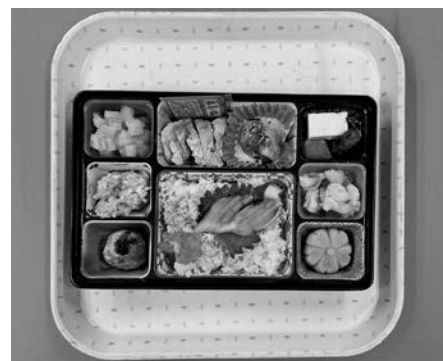
4. 令和8年度の目標

- (1) 利用者健康増進と豊かな食生活を目指す
- (2) 職員の資質向上を図り、利用者への食事還元する
- (3) 衛生管理の徹底と感染防止を図る
- (4) 災害時の対応強化

令和7年度



年越し折詰



花火大会



療育園祭



新年祝う会

事務部

＜総務課＞

1. 年間目標

- (1) 人材の育成と業務伝達
- (2) 関係部署との連携強化
- (3) 診療報酬改定・障害福祉サービス等報酬改定対応
- (4) 医師働き方改革対応・インボイス制度の各部署周知対応

2. 具体的実施要項・内容

- (1) 各自業務目標を設定し、スキルアップを図る。仕事の見える化・手伝える体制作り。
- (2) 関係部署と情報を共有し、業務の円滑化を図る。
- (3) 研修、行政の説明会への参加し、報酬改定への対応
- (4) 医局への制度説明、システムの修正、税制についての職員への説明。

3. 令和7年度の結果

- (1) 事務職員としてのスキルアップは図れた。
- (2) 他部署との連携は図れた。
- (3) 関係部署・他部署の連携で物品購入・入替などがうまく進められた。
- (4) 医局のシステムは混乱することなくできた。税務制度の周知は今後も図っていく。

4. 令和8年度の目標

- (1) 人材の育成と業務伝達
- (2) 関係部署との連携強化
- (3) 診療報酬改定の対応と障害福祉サービス等報酬改定の準備
- (4) 新規加算の取得と対応

＜施設サービス＞

1. 年間目標

- (1) 入所者の安全を守る為に、設備等の適切な管理に努める
- (2) 人材の育成
- (3) 感染予防の為に、より一層洗濯・清掃業務の清潔を心掛ける

2. 具体的実施要項・内容

- (1) 日々の点検をより確実にし、適切な設備管理を推進する。
- (2) 業務や日々の点検の伝達を行い、業務水準を上げていく。
- (3) 適切な洗濯・清掃業務により清潔な環境づくりを推進する。

3. 令和7年度の結果

- (1) 人員が不足した時も部内で業務を分担しフォローし合い滞ることなく行った。
- (2) それぞれの得意を活かした育成・業務が出来た。人員も増員し、以前よりサービス水準は上がった。
- (3) 特に問題なく、園内外の清潔な環境づくりができた。

4. 令和8年度の目標

- (1) 入所者の安全を守る為に、設備等の適切な管理に努める
- (2) 人材の育成
- (3) 蛍光灯から省エネ器具のLEDへの入替を継続的にを行い、エネルギー使用量の削減を図る

令和8年度委員会の活動計画

委員会名	具体的活動要綱
医療機器安全委員会	1. 医療機器の安全管理のための体制の確保 2. 医療ガスの事故防止と効率的な供給システムの確保 3. 医療機器・医療ガスを安全に使用する為の勉強会の実施（4回/年） 4. 保守点検に関する計画を策定し保守点検を実施
医薬品安全委員会	1. 各種手順書・マニュアルの見直し 2. ハイリスク薬・禁忌薬の見直し 3. 研修会の実施 4. 病棟・薬局における医薬品管理
安全衛生委員会	1. 職員健康診断（2回/年）の実施 2. 職員ストレスチェックの実施（1回/年） 3. アンケート調査による職員の痛みの状況把握、ストレッチ体操の推進 4. 腰部保護ベルトの適正使用、ノーリフトケアの推進 5. 職場内の定期的な巡視・指導、化学物質などの対応と周知 6. 労働災害事例における再発防止策の検討 7. 安全衛生に関する勉強会の実施
感染対策委員会	1. 定期的な保菌者の確認 2. 抗菌剤使用状況の確認 3. 勉強会の実施（2-3回/年）、研修会参加・伝達 4. 予防接種の実施及び感染者対応の徹底 5. 医療廃棄物の管理（特別管理産業廃棄物の管理） 6. 園内ラウンドの実施（2回/月） 7. 手洗い・うがい・マスク・ゴーグル着用の声掛けの継続
医療安全委員会	1. 事故報告書による事故分析・調査・フィードバック 2. 各病棟及び部署を巡回し、業務手順のチェックと確認 3. 研修会の実施 2回/年 4. 事故防止運動の実施
褥瘡対策委員会 (褥瘡対策チーム)	1. 褥瘡形成者、形成注意者の把握 2. 入所者個々の危険因子に対し、援助計画の作成と実施 3. NSTと連携し栄養状態の把握と改善 4. 毎月褥瘡新聞（褥瘡保持者、リスク者、褥瘡対策掲載）発行、勉強会実施

委員会名	具体的活動要綱
教育研修委員会	1. 園内研修、園外研修、自主勉強会、研究活動の積極的実践及び参加を働きかけ、職員のスキルアップを支援する 2. 研修の情報提供と参加促進を図り、職員の自律的キャリアアップを支援する
防災委員会	1. 毎月の訓練の実施 2. BCPの修正と、計画に沿った訓練の実施 3. 職員への防火・防災の勉強会を実施 4. 法人内他施設、町内会と共同訓練を行い協力体制を図る 5. 消火栓・消火器等の防火用具を職員に説明し訓練を実施 6. 定期的な防災設備の点検
給食委員会 (NST) 給食運営会議	1. 利用者への継続的なアセスメントの実施・栄養改善策の検討 2. 経管栄養剤・栄養補助食品等の情報共有 3. 栄養状態や食事に関する事項の報告、検討 4. 栄養、食事に関連する勉強会の実施
広報委員会	1. 園外報 DOSHIN No.80 7月発刊予定 2. 園内報 どうしん 57号 3月発刊予定
虐待防止委員会 身体拘束最小化委員会	1. 虐待状況（身体拘束）の確認と対策状況の検討 2. 研修会の実施 3. 虐待（身体拘束）に関する規定の整備 4. 虐待（身体拘束）の訴えの受付と検討、対策 5. 身体拘束状況の巡回チェック
個人情報保護委員会	1. 施設内の個人情報保護の状況の確認 2. 個人情報保護に関する訴えの受付と対策の検討 3. 個人情報に関する研修の実施 4. その他個人情報保護に関する事項に対しての活動
苦情対策委員会	1. 苦情処理要綱に沿った苦情受付、対応の実施 2. 必要時に緊急の委員会を開催する 3. 外部研修を受講し知識向上を図る 4. 勉強会の実施
ハラスメント対策委員会	1. 職員からの申告に基づき、カスハラ、パワハラ、セクハラ等の受付、対応 2. 職員に対して、勉強会の実施・情報の周知

令和7年度 研修会・勉強会 実施表

月/日	曜日	時間	開催担当	担当者	参加人数	内容
4/ 1	火	17:15～18:00	教育研修委員会	中村政浩・浅見由佳子	6名	プリセプターについて
4/ 4	金	9:30～15:00	教育研修委員会	小熊充子・浅見由佳子	16名	新人・中途採用者研修
4/ 7	月	9:30～15:00	教育研修委員会	中村政浩・栗原朱美	16名	新人・中途採用者研修
4/21～6/4			感染対策委員会	感染対策委員会	234名	チェッカーローションによる手洗いの勉強会
5/14	水	17:20～	医療機器安全委員会	吉田辰倫	30名	基本的な人工呼吸器の取扱、及び人工呼吸器使用患者の注意点
5/20	火	17:20～18:00	自主勉強会	鍛冶山洋	35名	ディスコミュニケーションが生じやすい保護者の背景と対応の工夫
6/11	水	17:15～18:00	医療ガス委員会	若杉行法	17名	医療ガス設備の安全な取り扱い方法
6/27	金	17:00～17:15	医療機器委員会	吉田辰倫	6名	2病棟 呼吸器(ASV)の取扱い
6/30	月	10:30～11:00	看護主任	田中智恵子・米山恵理香	14名	3病棟 緊急時の対応(シミュレーション)
7/ 3	木	16:00～17:00	教育研修委員会	中村政浩・風間佳代子・小熊充子	5名	新人研修「3か月経過してグループワーク」
7/ 8	火	17:15～	安全衛生委員会	岩佐由香子・布施明日香	25名	腰痛予防について
7/ 9	水	11:30～11:50 12:30～12:50	防災委員会	岩渕政人・若杉行法	78名	病院におけるBCPについて 欠席者は資料閲覧
7/9,7/10,7/15	水・木・火	17:15～17:40	感染対策委員会	感染対策委員	120名	吐物の処理方法について 汚物処理についての実技
7/11	金	16:00～17:00	教育研修委員会	浅見由佳子・風間佳代子・小熊充子	6名	プリセプター研修「3か月経過してグループワーク」
7/12	土	10:30～11:00	看護主任	田中智恵子・米山恵理香	11名	3病棟 緊急時の対応(シミュレーション)
7/12,14,18, 28,31,8/4,8,16		17:00～18:15	教育研修委員会	教育研修委員会	61名	オンデマンド型療育セミナー
7/16	水	17:15～18:15	感染対策委員会	感染対策委員	78名	標準予防策・感染経路別予防策
7/20	日	10:30～11:00	看護主任	田中智恵子・米山恵理香	6名	3病棟 緊急時の対応(シミュレーション)
7/26	土	9:00～12:15	教育研修委員会	仲野知子・小林俊史・高橋源子・田中香奈	11名	目的別研修 摂食
8/5,6,7,9	火・水・木・金	17:15～17:40	医療事故防止委員会	伊藤哲也	154名	『医療チームのコミュニケーション』動画視聴と補足説明
8/19	火	11:00～11:20	看護主任	田中智恵子・米山恵理香	5名	3病棟 緊急時の対応
8/20	水	17:15～17:45	保育士	保坂麻祐	10名	簡単にできる「手遊び・ふれあい遊び」について
9/ 3	水	17:15～18:00	看護主任	青柳徳和	17名	挿管介助について
9/ 4	木	17:15～17:45	通園	中野孝二	6名	ハイエース乗降方法と安全確認について
9/10	水	17:15～17:45	医療機器安全委員会	吉田辰倫	12名	各種ポンプ類の取り扱いについて
9/16	火	16:30～16:50	防災委員会	岩渕政人	33名	感染症BCPについて 欠席者は資料閲覧
10/1,8,15,22	水	17:15～17:45	虐待防止・身体拘束 最小化委員会	阿久津太陽・新保里枝・栗原朱美・小川恵里子	176名	虐待防止・身体拘束について 内容・定義・要件の理解
10/7,14,21	火	15:00～15:20	医療機器安全委員会	元井玲子	83名	ポータブルレントゲン撮影機の取り扱いについて
10/7,14,21	火	15:00～15:20	医療機器安全委員会	元井玲子	88名	診療用放射線の安全利用のために
10/24	金	17:15～	指導員	高橋裕子	23名	個別支援計画に即した記録の書き方
11/15	土	9:00～11:30	理学療法士	大瀧健・青柳綾子・石坂朱夏	17名	目的別研修・ポジショニングについて
11/16	日	15:00～15:30	サービス管理責任者	新保里枝・関愛	18名	個別支援計画について
11/23	日	15:00～15:30	介護福祉士	田中友紀子・佐藤詩織	14名	リフターの使い方
11/30	日	15:00～15:30	介護福祉士	田中友紀子・佐藤詩織	15名	スライディングボードの使い方
12/13	土	9:00～12:00	理学療法士	竹内佑子・目崎未央	13名	目的別研修・肺理学療法
12/21	日	15:00～15:30	保育士	山岸祥子	15名	遠城寺式発達検査法について
12/28	日	15:00～15:30	介護福祉士	庭野勇太・廣川智美	15名	オムツ介助について
1/10	土	11:00～	通園	森路子・中澤彩	13名	モルックを体験する
1/11	日	15:00～15:30	保育士	五十嵐美苗	19名	発達について
1/13	火	17:15～17:45	安全衛生委員会	海津千晴	23名	メンタルヘルスケアについて
1/24	土	9:00～12:00	作業療法士	浅田佳奈子・成田美和・金子奈々・伊東紀子	9名	目的別研修・感覚遊び
1/25	日	15:10～15:45	介護福祉士	長島友香	23名	ボディメカニクスについて、実践
2/7,8,15,22	土・日	30分	介護福祉士	金山綾子・神林由美	70名	伝達研修 福祉職の接遇マナー(基礎編)
2/ 8	日	15:00～15:30	介護福祉士	吉田美紀・布川加寿美	15名	ポジショニングについて
2/12,13,20	木・金	11:00～11:30	介護福祉士	近藤佳代子・中村美沙穂・金山綾子	25名	オムツのあて方について
2/22	日	15:00～15:30	保育士	星智裕	15名	重症心身障害児の遊びについて
2/25	水	17:10～17:30	個人情報保護委員会	岩渕政人	78名	個人情報保護について、実例
3/23	月	16:00～17:20	教育研修委員会	中村政浩	9名	GW「今後の中途採用者への支援体制について」
3/26	水	17:10～17:40	地域(指導)	坪谷梨絵・小川景子・浅見由佳子	15名	地域連携室とは(計画相談と短期入所について)

令和7年度 園内行事一覧

月 日	行 事 名	実 施 場 所
5月18日	療 育 園 祭	各病棟
7月6日・8月17日	大 運 動 会	各病棟
9月27日	花 火 大 会	北側駐車場
9月13日・14日	在宅交流キャンプ	柏崎市みなとまち海浜公園他
1月18日	新 年 を 祝 う 会	各病棟

その他

毎月：誕生会 他、季節の病棟行事

園内行事報告

【大運動会】

担 当 1病棟 主任

テーマ みんな輝け 2025療育園万博

日時・場所

令和7年7月6日(日) 1病棟

令和7年8月17日(日) 2・3病棟

活動内容

10:30 開会式

- ・代表者挨拶
- ・家族会代表挨拶
- ・ラジオ体操
- ・選手宣誓
- ・応援合戦

10:45 競技

- ・各病棟でテーマに沿った競技を実施

11:40 結果発表・表彰式

11:45 閉会

12:00 昼食



7月6日に1病棟、8月17日に2・3病棟が各病棟で運動会を実施しました。

入所者140名、在宅9名、77家族、104名が参加して、万博にちなんだ競技を行い、大いに盛り上がりました。

音や振動、感触など、いろいろな刺激を感じ、みんなで楽しむことができました。ご家族の皆様、ご協力いただきましてありがとうございました。

令和8年度 事業計画概要

1. 運営の基本方針

新潟県における重症心身障害児・者の中核施設として

- (1) 障害者総合支援法の理念に沿い、地域医療・福祉の推進をめざす。
- (2) 医療的レベルの向上に努め、医療・看護・育成・事務等の組織的統合をめざす。
- (3) 根拠に基づいた医療と療育を展開し、利用者のQOL向上をめざす。

2. 重点項目と具体的施策

	重 点 項 目	具 体 的 な 施 策
1	外来機能の強化	・ 外来診察室の増室（2 診→3 診体制に変更） ・ 心理室の増室
2	在宅事業の拡充	・ 在宅事業の届け出変更 （通園センターの体制変更と定員増）
3	医療型短期入所事業の強化	・ 職員の増員（採用の強化） ・ 重い病態の短期入所者がさらに利用できるよう、体制整備を整える。
4	育成（介護、保育）職員の雇用の強化	・ 採用媒体の利用や、各種学校への働きかけの強化。 ・ 実習受入、職員紹介を積極的に行い、採用に繋げる。
5	DXの推進	・ 職員の作業工数削減ツール導入の検討 ・ 電子カルテシステムの再構築の検討

3. 主な設備投資計画

	事 業 名	備 考
1	エアコンEHP交換	導入後20年以上経過
2	ベッド入替	順次入替途中
3	LED入替工事	外来・リハ棟
4	温冷配膳車入替	購入後10年以上経過
5	第5キュービクル更新	R 7 年度理事会で承認済み

令和7年度 事業実績概要

1. 事業概要

当園は、医療法上の病院であり、かつ社会福祉法上の障害児・者入所施設でもある。長期入院、緊急入院等の入院機能と、外来診察、リハビリテーション、訪問看護、医療型短期入所、居宅介護、日中一時支援、生活介護、児童発達支援、放課後デイサービス、新潟県医療的ケア児支援センター事業等の地域在宅支援機能を複合的に展開している新潟県唯一の重症心身障害児者の為の施設である。

2. 事業の具体的実施事項

(1) 医療、福祉人材の確保

- ・常勤看護師数は前年末と比較し7名増員できた。
- ・介護、保育職の職員数は、前年より増やすことはできなかった。

(2) 在宅利用者数の増加を図る

- ・通園センターの利用者数は前年同様に届け出数を上回る利用があった。
- ・ケアステーション魚沼の利用者数の増加は図れなかった。

(3) 短期入所利用者数を増やす

- ・短期入所の利用者の医療度が高くなっており、病棟で管理できる利用者数に制限をかけた為に利用者数を増やすことはできなかった。

(4) 長期入所の安定稼働

- ・アフターコロナで療育活動も活発に行えた。
- ・新規入所決定も昨年度より、早く決定できるようになった。

(5) 職場環境の整備

- ・安全管理計画の徹底で労災数は、前年より減少した。

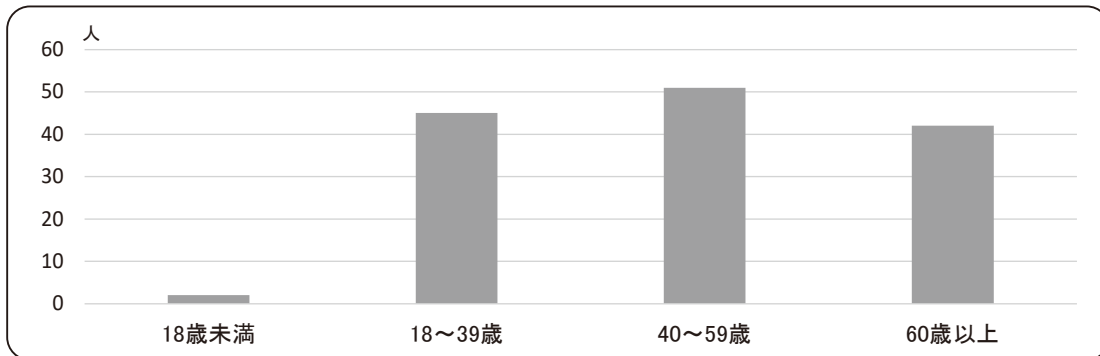
3. 年間実績・施設長としての総括

人手不足のために利用者を受け入れできない状況に対して、看護職は増やせたが、介護、保育職は増やせなかった。利用者の医療度増加もあり、利用者増加は至らなかったが、種々の工夫で、前年並みの利用者を受け入れ、利用者のQOLを向上できるように運営した。

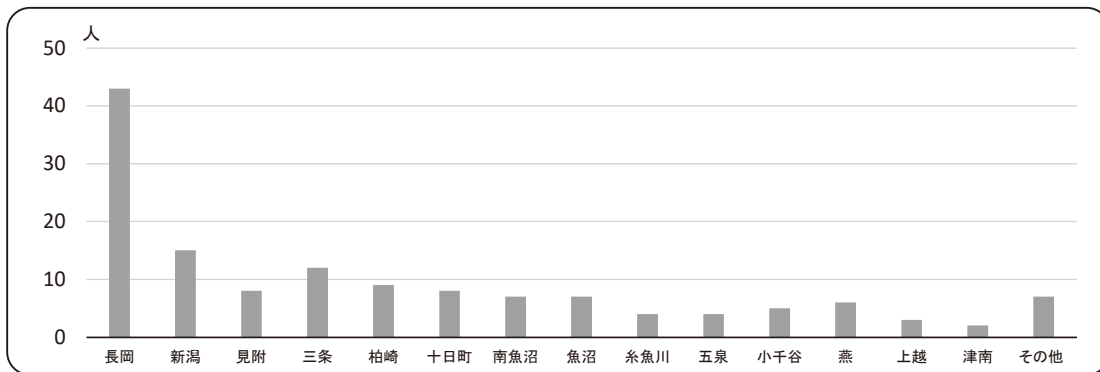
4. 令和7年度事業実績データ

(1) 入所部門（R8.3.31時点）

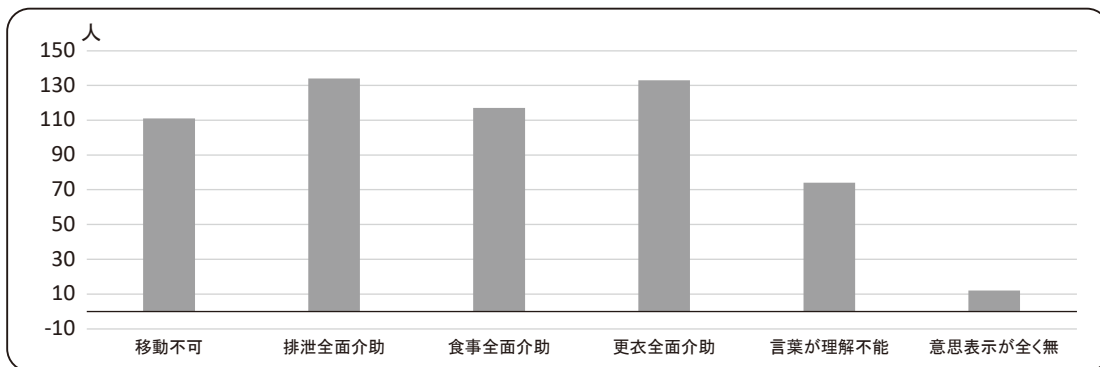
①年齢構成



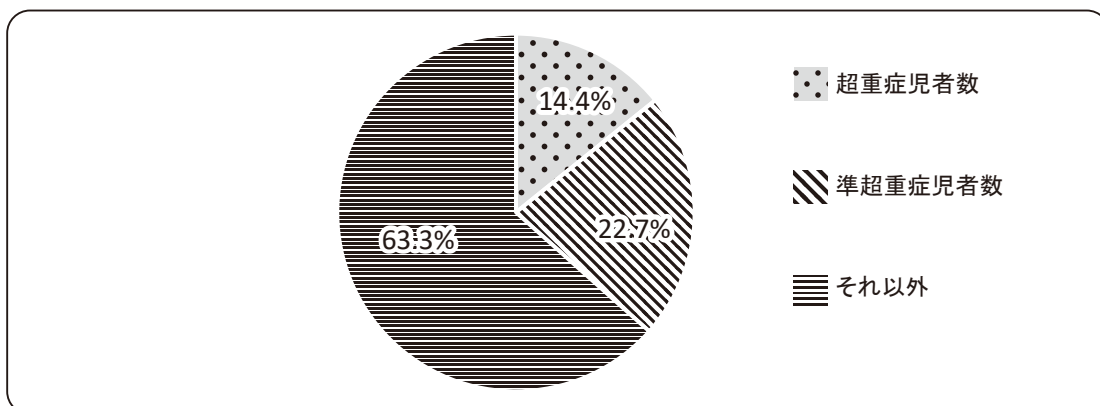
②出身地



③日常生活の自立度

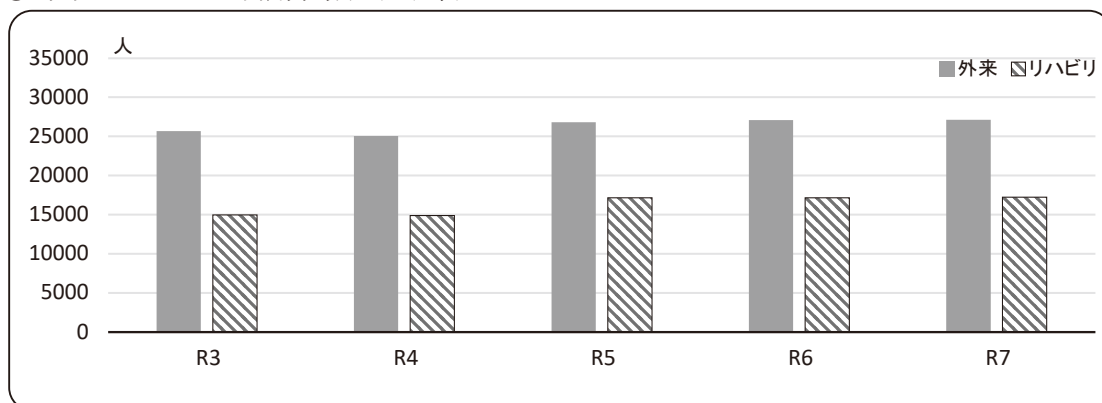


④超・準超重症児者の割合

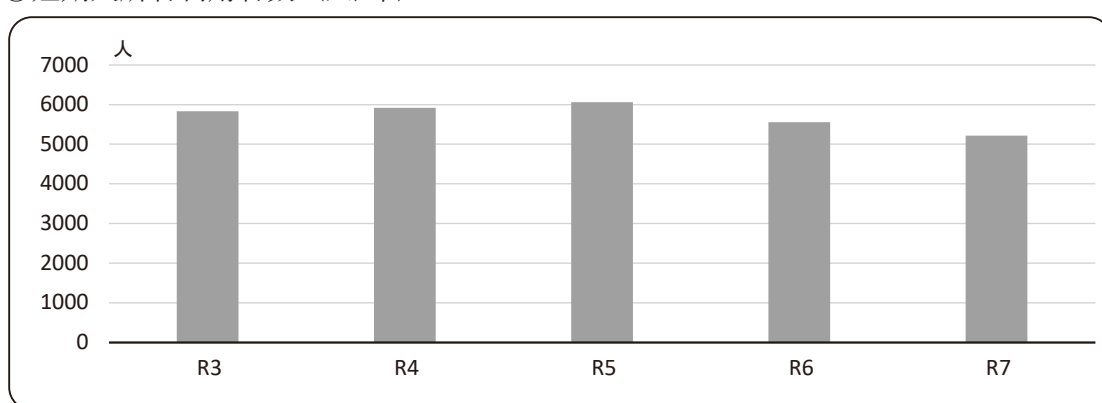


(2) 在宅部門

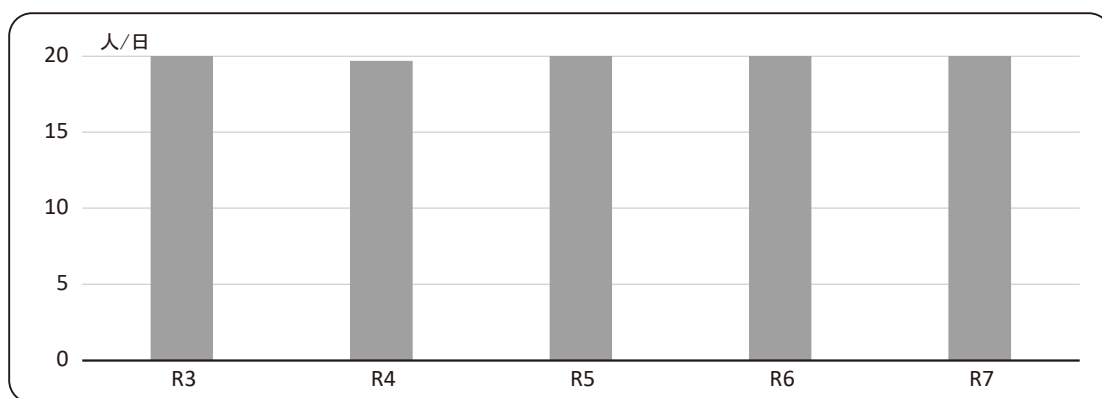
①外来、リハビリ利用者数（人/年）



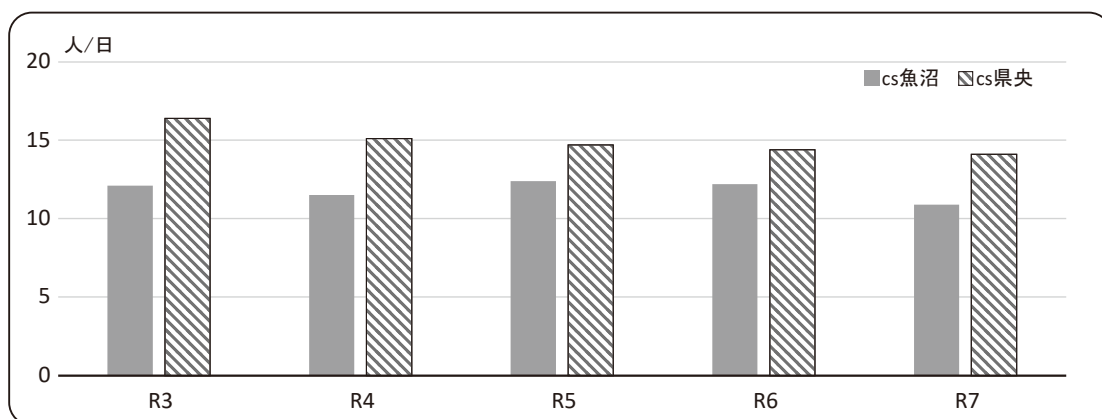
②短期入所者利用者数（人/年）



③年度別通園センター 1 日平均利用者数（定員 20人/日）



④年度別ケアステーション魚沼・県央 1 日平均利用者数（定員 20人/日）



5. その他

(1) 防火防災体制の確立

病棟・園内の各部署にて毎月避難・消火の総合防火・防災訓練、その他にBCPに基づく、感染症、地震、原子力の訓練を行った。また、毎年10月に事業団内の関連施設や地域住民、地域消防団、長岡消防署等が参加しての総合合同防災訓練および防災講演会を行い、地域住民と行政、長岡市消防署と一体で総合訓練を行った。

(2) 安全衛生体制の確立

感染対策委員会が中心となり、感染症への対策を行った。その他、医療機器安全対策、委員による医療機器・医薬品等の安全対策、事故防止委員による事故防止、安全衛生委員会による園内の安全衛生対策、働き方改革の推進を行い、職場の安全衛生対策の強化を図った。

(3) 防犯体制の強化

各部署の感染対策とセキュリティ対策の強化を行った。また、BCPの修正、避難確保計画の修正等を行った。また、職員の安全を守る為、さすまた等の防犯器具の取扱い方の周知徹底（実地研修）や、長岡警察署から防犯の教育を受けた。

令和 8 年度 資金収支予算書

自令和 8 年 4 月 1 日 至令和 9 年 3 月 31 日

(単位：千円)

勘 定 科 目	前年度予算額	当初予算額	増 減
【事業活動による収支】			
障害福祉サービス等事業収入	997,535	1,012,791	15,256
自立支援給付費収入	886,235	907,145	20,910
障害児施設給付費収入	78,740	72,657	△ 6,083
利用者負担金収入	2,410	2,459	49
特定費用収入	11,090	10,560	△ 530
その他の事業収入	19,060	19,970	910
医療事業収入	1,455,465	1,466,600	11,135
入院診療収入	1,213,155	1,219,830	6,675
外来診療収入	241,320	245,923	4,603
その他の医療事業収入	990	847	△ 143
不動産貸付事業収入	3,078	3,060	△ 18
経常経費寄附金収入	0	0	0
受取利息配当金収入	0	0	0
その他の収入	52,334	8,850	△ 43,484
事業活動収入計(1)	2,508,412	2,491,301	△ 17,111
人件費支出	1,583,514	1,608,218	24,704
事業費支出	428,727	436,001	7,274
事務費支出	160,409	176,202	15,793
利用者負担軽減額	0	0	0
支払利息支出	58	0	△ 58
その他の支出	0	0	0
事業活動支出計(2)	2,172,708	2,220,421	47,713
事業活動資金収支差額(3) = (1) - (2)	335,704	270,880	△ 64,824
【施設整備等による収支】			
施設整備等収入計(4)	0	0	0
施設整備等支出計(5)	33,000	87,980	54,980
施設整備等資金収支差額(6) = (4) - (5)	△ 33,000	△ 87,980	△ 54,980
【その他の活動による収支】			
その他の活動収入計(7)	0	2,450	2,450
その他の活動支出計(8)	309,473	0	△ 309,473
その他の活動資金収支差額(9) = (7) - (8)	△ 309,473	2,450	311,923
予備費支出(10)	0	0	0
当期資金収支差額合計(11) = (3) + (6) + (9) - (10)	△ 6,769	185,350	192,119
【資金残高】			
前期末支払資金残高(12)	946,658	980,850	34,192
当期末支払資金残高(11) + (12)	939,889	1,166,200	226,311

令和 7 年度 貸借対照表

令和 8 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	当期残高	前年同月	増 減
資産の部			
流動資産	890,277,179	846,397,753	43,879,426
現金預金	405,468,910	368,132,058	37,336,852
未収金	452,873,011	445,321,377	7,551,634
その他	31,935,258	32,944,318	△ 1,009,060
固定資産	7,369,562,064	7,167,025,799	202,536,265
基本財産	1,031,264,480	1,100,217,893	△ 68,953,413
その他の固定資産	6,338,297,584	6,066,807,906	271,489,678
資産の部合計	8,259,839,243	8,013,423,552	246,415,691
負債の部			
流動負債	179,046,120	185,425,848	△ 6,379,728
固定負債	260,286,551	260,037,551	249,000
負債の部合計	439,332,671	445,463,399	△ 6,130,728
純資産の部			
国庫補助金等特別積立金	65,829,787	76,152,238	△ 10,322,451
その他の積立金	0	0	0
次期繰越活動増減差額	7,754,676,785	7,491,807,915	262,868,870
純資産の部合計	7,820,506,572	7,567,960,153	252,546,419
負債及び純資産の部合計	8,259,839,243	8,013,423,552	246,415,691

令和 7 年度 事業活動収支計算書

自令和 7 年 4 月 1 日 至令和 8 年 3 月 31 日

(単位：円)

勘 定 科 目	当期残高	前年同月	増 減
【サービス活動増減の部】			
障害福祉サービス等事業収益	980,347,019	988,052,885	△ 7,705,866
医療事業収益	1,480,730,764	1,441,528,075	39,202,689
不動産貸付事業収益	3,106,000	3,093,000	13,000
その他の収益	5,248,118	5,214,371	33,747
経常経費寄附金収益	120,001	441,206	△ 321,205
サービス活動収益計(1)	2,469,551,902	2,438,329,537	31,222,365
人件費	1,556,590,295	1,534,684,738	21,905,557
事業費	415,454,884	412,112,799	3,342,085
事務費	156,667,823	162,266,288	△ 5,598,465
減価償却費	137,232,264	137,770,367	△ 538,103
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 11,046,451	△ 11,176,953	130,502
サービス活動費用計(2)	2,254,898,815	2,235,657,239	19,241,576
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	214,653,087	202,672,298	11,980,789
【サービス活動外増減の部】			
受取利息配当金収益	44,208,930	41,274,053	2,934,877
その他のサービス活動外収益	4,062,710	10,717,113	△ 6,654,403
サービス活動外収益計(4)	48,271,640	51,991,166	△ 3,719,526
支払利息	58,000	78,000	△ 20,000
その他のサービス活動外費用	4,740	296,900	△ 292,160
サービス活動外費用計(5)	62,740	374,900	△ 312,160
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	48,208,900	51,616,266	△ 3,407,366
経常増減差額(7)=(3)+(6)	262,861,987	254,288,564	8,573,423
【特別増減の部】			
施設整備等補助金収益	724,000	940,000	△ 216,000
固定資産受贈額	183,261	447,000	△ 263,739
事業区分間繰入金収益	0	0	0
拠点区分間繰入金収益	0	2,550,000	△ 2,550,000
拠点区分間固定資産移管収益	0	0	0
サービス区分間繰入金収益	0	0	0
固定資産売却益	0	0	0
その他の特別収益	0	0	0
特別収益計(8)	907,261	3,937,000	△ 3,029,739
固定資産売却損・処分損	176,378	15	176,363
国庫補助金等特別積立金取崩額（除却等）	0	0	0
国庫補助金等特別積立金積立額	724,000	940,000	△ 216,000
サービス区分間繰入金費用	0	0	0
拠点区分間繰入金費用	0	1	△ 1
その他の特別損失	0	0	0
特別費用計(9)	900,378	940,016	△ 39,638
特別増減差額(10)=(8)-(9)	6,883	2,996,984	△ 2,990,101
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	262,868,870	257,285,548	5,583,322
【繰越活動増減差額の部】			
前期繰越活動増減差額(12)	7,491,807,915	7,234,522,367	257,285,548
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	7,754,676,785	7,491,807,915	262,868,870
基本金取崩額(14)	0	0	0
その他の積立金取崩額(15)	0	0	0
その他の積立金積立額(16)	0	0	0
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	7,754,676,785	7,491,807,915	262,868,870

令和8年度 家族会・守る会分会

家族会・守る会分会の定期総会において下記の役員が承認されました。

今年度「里の事業団」での実施となりますが長岡療育園が担当となり芋煮会も開催されます。行事等での病棟参加人数も4名までとなりました。

地区別懇談会は午前中だけでは時間が短いという声を聞き昼食の用意も可能とします。昼食を食べながら懇談していただきたいと思います。

新型コロナウイルス前の体制とはなりません少しずつ会員の皆様が家族間同士の繋がりを大切に活動ができますよう微力ながら努めていきます。会員の皆様のご理解とご協力よろしくお願いします。

長岡療育園家族会・守る会長岡療育園分会 会長 星名 紀美子



4月18日に家族会総会を開催し56名の方に出席いただきました。多くの皆様の出席ありがとうございました。

総会終了後は会員のみなさんとお弁当を食べながら懇談しました。あちこちのテーブルで賑やかな声が聞こえました。



令和8年度役員のみなさんです。1年間よろしくお願い致します。
今年度の活動内容については総会資料をご覧ください。

◇ 令和7年度 学会発表・園内研究 ◇

学会・研究会発表

第50回日本重症心身障害学会学術集会 令和7年11月21日・22日 三重県津市

- ・重症心身障害児におけるターミナルケアの実践
- 長谷川恵 風間佳代子 中村美沙穂 米山恵理香

第36回重症心身障害療育学会学術集会 令和7年10月2日・3日 埼玉県さいたま市

- ・看護職の重症心身障害児の療育に対する意識調査
- 内山素子
- ・経口摂取への拒否が強い入所者への関わり
- 田中隆文 安藤佳代子 関愛 山岸祥子 保坂麻祐 布川加寿美

第28回全国重症心身障害日中活動支援協議会 令和7年10月9日・10日 和歌山市

- ・横地分類A4に対する療育活動実践報告
- 小林諭司 佐藤美香 佐藤唯 橋本奈津美 諸橋佳奈 横山恵子



重症心身障害療育学会学術集会(埼玉県)での
内山さんの口頭発表



重症心身障害療育学会学術集会(埼玉県)での
田中さんの口頭発表

園内研究

1) 花火を疑似体験して表出反応を探る 松本千佳 阿部瑞保 中澤孝史 内藤まりえ 小川恵理子
2) A施設で働く重症心身障害児看護におけるやりがい - 魅力と困難さから見えたこと - 田中智恵子
3) モビコール内服薬の便性の変化とその影響 内山奈緒美 鈴木愛香 海津千晴 下条智子 青柳徳和
4) 表情の分かりにくい利用者に対するピアノを用いたふれあい遊びの反応 保坂麻祐 五十嵐美苗 安藤佳代子 石原愛美 平澤友子
5) 反復性尿路感染症、尿路結石に対する強酸性水による膀胱洗浄の効果 金野歩未 佐藤翔太 田中遥 風間桃果 前田美由紀
6) 生活介護事業利用の保護者の悩みを座談会を通して知る 橋本奈津美 横山恵子 諸橋佳奈 佐藤美香 佐藤唯 佐藤多香子 伊藤優子 中村享子 荏戸麻美 池田詩季 伊藤恭江 小林諭司
7) 家庭における口腔清掃の実施状況と言語理解発達年齢との関連 小林俊史 鍛冶山洋 高橋源子
8) 意思の読み取りに関する発達段階別の傾向 小林まどか 浅井陽子 榎本武史 桑原真美子 小林友子 佐藤昌子 丸山公輔 水落貴子 森山葉月 柳田君枝 陽田直美 若林和幸
9) 通園事業 35 周年を迎えて療育活動を振り返る 高橋淳 高橋のぞみ 岩田亜紀江 大塚友梨 梅原万里 新保雄一
10) 2 病棟における身体拘束軽減に向けた取り組み 金子亜友美 岩佐由香子 山崎仁美 西脇知子 神林由美 小宮貴恵 栗原朱美

寄 贈

＜令和 7 年度＞

下田 泰行 様
腹臥位装置



通園にて利用しています。

佐藤 亨 様
キーボード



1 病棟にて療育活動などで
利用しています。

ボランティア

＜令和 7 年度＞ ※順不同

五十嵐 フミエ様
時田 順子様

池田 シゲ子様
成保 房子様

岡 栞奈様





崇徳厚生事業団の基本理念

「自分や家族、友人が利用したい
と思うサービスの提供」

長岡療育園のモットー

- 「障害とともに生きる子供たちの命の輝き
(QOL)を大切にしたい」
- 「根拠に基づいた医療と療育の提供」
- 「障害者の笑顔を求めて、大切にしたい」
- 「家族会と療育園は車の両輪」
- 「明るく、安全で、安心できる施設を目指して」

編集委員

鍛冶山 洋
保坂 麻祐

泉澤 恭子
早川千賀子

石田 知香
金子亜友美

浅田佳奈子
近藤佳代子

吉井 竜也
田中 亮佑

田中友紀子
中澤 彩